



DBKだより

第22号
2019年6月1日
ドン・ボスコ基金



復活の信仰に生きるわたしたちが、人びとの中で、
絶えずその証しを立てることが出来ますように。

年間週日18 ミサの集会祈願より

サレジオ家族年間目標(ストレンナ) 2019 日本版ポスター

トピック

シリア支援キャンペーン2019／スリランカ 修練院の改修、子どもたちへの無償の授業／ブラジル サン・マテウス学園 奨学金の援助要請
ナミビア カトリック宣教センターでの青少年教育活動／東京 青少年の居場所 ハッピーハウス／東京 星美ホーム サローネ基金
東京 多文化共生センター東京／ボリビア カーザ・マインと小学校建設プロジェクト／報告 サレジオ会 ミッション・オフィス世界大会

恩人の皆様へ

「復活の信仰に生きるわたしたちが、人びとの中で、
絶えずその証しを立てることが出来ますように。」

この祈りは、ミサの集会祈願でたびたび唱えられます。わたしたちが主イエス・キリストによって生かされ、主と共に、主のうちに永遠に生きる者となることを、人びとの中で証しすることができるように、という祈りです。証しの方法は人それぞれでしょう。言葉をとおして、行動をとおして、生き方をとおして、沈黙のうちに祈ることをとおして……

DBK [ドン・ボスコ基金] の恩人の皆様は、上記に加えて献金という形で、ご自分の信仰(良心の声に従った生き方)を証ししてくださっています。ありがとうございます。皆様方のご支援により、本誌にご紹介していますように、国内外の多くの青少年をはじめ、わたしたちの支援を必要とする活動を支えることがで

きました。ここにその一部をご報告し、心より感謝申し上げます。

世界の動きは、けっして良いことばかりではありません。自然災害をはじめ、武力や経済事情などさまざまな原因によって安心して生きることができない状況が多発しています。なかでも、子どもたちにとってそのような環境は、学びたくても学べない、食べたくても食べられない、家族と共に居たくても居られないなど、困難さが際立ってきています。国外だけでなく、国内でもその波は押し寄せてきています

わたしたちが、それらのすべてに応えることはできないとしても、できる範囲で支援し続けられたらと願っています。今後とも皆様のご理解と温かいご支援を、どうぞよろしくお願い致します。

2019年6月

DBK [ドン・ボスコ基金] 代表 濱口 秀昭
(サレジオ会日本管区長)

シリア支援キャンペーン2019 シリアの子どもたちの 未来のために



戦争が続き、助けを必要としているシリアの子どもたちのために、サレジアン・シスターズは世界中のサレジオ家族に「シリア支援キャンペーン」を呼びかけています。日本においては、DBK[ドン・ボスコ基金]が窓口となって、ご寄付を受け付けています。皆様のお祈りとご支援をよろしくお願いいたします。

* * *

**サレジアン・シスターズ ローマ本部総評議員
シスター井上澄子**

この度は、シリア支援キャンペーンを紹介させてくださり、ありがとうございます。私たちサレジアン・シスターズは、シリアの首都ダマスコに病院と幼稚園の2つの支部を持ち、戦況が少し治まった2017年にはアレppoの支部を再開し、小さな幼稚園を始めています。シリアは2011年から激しい内戦に苦しんできましたので、私たちの学校に来る子どもたちはすべて戦争のさなかに生まれ育った子どもたち、つまり、戦争の状況しか体験したことのない子どもたちです。戦争前のこの国の美しさを知っている大人たちは、多くの家族、

親戚、友人を失って、今はまだ、子どもたちに夢を語る力を持ちません。子どもたちが描く絵は闘っている兵士、戦車ばかりです。

今、彼らに一番必要なのは、世界が彼らを決して忘れていないことを示す援助の手と、未来を築く子どもたちへの教育環境を整えることです。せめて私たちが提供する平和な環境の中で、シリアの子どもたちが、彼らを支える大人たちと一緒に将来の夢を描けるように、寛大にご支援くださるよう、心からお願いいたします。

* * *

**サレジアン・シスターズ ローマ本部総財務
シスター・ヴィルマ・タッローネ**

現在、シリアではサレジアン・シスターズが1つの病院、2つの幼稚園の経営をしています。長引く戦争状態のため、町は破壊され、見る影もない中で、人びとや子どもたちのためにシスターたちが活動を続けていますが、国の再建のためには教育がどうしても必要です。小学生や中学生のための学校建設を計画していますので、皆様のご支援をどうぞ、よろしくお願いいたします。

ビデオ

シリア支援キャンペーン2019(YouTube 約8分)

シスター・ヴィルマ・タッローネによる
ビデオメッセージをご覧ください。

<https://youtu.be/dAbfxWUxLDs>



スリランカ

修練院の改修、子どもたちへの無償の授業



近隣の子どもたちに勉強を教える修練生たち

サレジオ会スリランカ準管区 ジョセフ・アルメイダ神父

スリランカのダンガルピティアにある、司祭をめざして勉強している修練生の寮(修練院) についてのお話です。この修練院は、キリスト教徒が一人もいない仏教徒だけの農村に隣接しています。ここでは、スリランカ、バングラデシュ、インドから司祭をめざす学生が来て勉強しており、現在5人のサレジオ会員と17人の学生が暮らしています。

彼らは自身の勉学のほかに、近隣の若者たち、特に孤児や貧しい子どもたちにも無償で勉強を教えています。約50人の子どもたちと約20人の若者たちが、英語や国語・算数を学ぶため、また、ユースセンターの活動に参加するためにやってきます。

司祭と修練生の住まいでもあるこの施設は、すでに老朽化しており、シロアリや蛾に侵食されて、健康的に生活できる空間がおびやかされています。建築業者によると建て直しが必要であり、費用の見積り額は約10万ユーロです。施設としての収入はなく、完全にサレジオ会に依存しています。

この建て直し費用を支援してくださることで、修練生たちがより健康的な生活と活動を実現できますように、皆様のご支援をよろしくお願い致します。

ブラジル

サン・マテウス学園 奨学金の援助要請



イエスのカリタス修道女会 ブラジル準管区管区長 シスター・アウジラ中島シズミ サン・マテウスカリタス学園校長 シスター・ベルナデッテ中川

イエスのカリタス修道女会がブラジル準管区で運営するサン・マテウス学園にとって、2018年は創立20周年を記念した年でした。創立からの歩みを生徒・児童・職員・保護者と共に振り返り、年間を通した行事の中で、これまでいただいたたくさんの恵みに感謝し、充実した年となりました。

本学園は年ごとに、地域に根を張って、皆様から高い評価をいただきながら成長してきていますが、運営にあたっては経済的な問題を抱えています。奨学金を希望する生徒が多く、援助はしたいのですが、全員の希望を叶えるためには私たちにとって苦しい決断が迫られます。

そのため日本の皆様に奨学金の援助をお願いいたします。勉学を続けたいと望む家庭の状況を知り、子どもたちの未来のためにも援助が続けられたらと願っています。ブラジルでは毎年、入学手続きを更新しますが、経済的な問題で手続きが困難な家庭があります。理由としては、父子家庭や母子家庭で低収入、リストラ、商売の不景気、病気の家族の介護などのためです。一般的に給料が低く、家のローン、治療費、薬などにお金がかかると、教育費を支払うのが難しくなる状況があります。

子どもたちが本学園で勉強を継続できるように援助をご検討いただけますよう、お願い申し上げます。皆様の上に神様の豊かなお恵みをお祈りいたします。

ナミビア・ルンドゥ カトリック宣教センター での青少年教育活動



カトリック宣教センターの聖堂にはベンチ、ドア、壁画が必要

サレジオ会ザンビア管区 ジョージ・シュルゴット神父

ナミビアは南部アフリカに位置する、人口約2,400万人、面積824,268平方キロメートルの国です。1990年の独立以来、比較的安定しており、農業・鉱業・漁業・観光が主要産業の市場経済を持つ中所得国です。推計では、ナミビアには約14万人の孤児がおり、そのうち7万人がエイズによる孤児です。エイズで両親を亡くした子どもたちは、温かい家庭環境に恵まれていないことが多く、最も基本的な欲求も満たされず、商業的な性的搾取や街の通りでの強制労働に対して抵抗できません。

男性の平均寿命の低さと出稼ぎが多いため、女性の世帯主が国内の全世帯数の約半分を占めています。こうした家族の中で成長する幼児は、両親と一緒に成長する他の子どもよりも成長過程で不利になる可能性が高く、若い少年や少女が家族全員の日常生活を支えています。その結果、彼らの多くは学校に通っておらず、社会的活動やレクリエーションの時間もほとんどありません。

私たちがプロジェクトの支援を希望しているルンドゥのカトリック宣教センターは、主に3つの教育活動を行っています。幼稚園、コンピュータスクール、社会から疎外された人たちのためのプログラムです。

幼稚園では1学期あたり50～60人の子どもが登録されています。プログラムと日常活動にはキリスト教教育も含まれています。

コンピュータスクールでは、基礎スキルを学ぶ3か月の短期コースがあります。学校には13台のコンピュータが設置されており、1学期あたり平均40人の生徒が学んでいます。

社会から疎外された人たちのためのプログラムは2016年から始まりました。97人の登録者があり、彼らは過去のさまざまな問題(虐待、低年齢の妊娠、貧困、機能不全の家族、アンゴラ難民など)を抱える10～27歳の子どもと若者です。生徒はプログラム全体を修了後、教育省が推奨する試験を受け、適切なレベルに応じて正式な学校に通えるようになります。子どもや若者は大変傷つきやすく、親身な世話と指導を必要としています。12～15歳で基本的な教育を受けていない孤児や、妊娠したため学校を退学した少女もいます。私たちは彼らが教育を受け続けられるよう努めています。来年はこのプロジェクトを拡大し、より多くの教師を雇用したいと計画しています。

幼稚園には新しい床とドアを設置する必要があり、教会には新しいベンチやドア、壁画が必要です。また、ナミビアは暑い国なので、ユースセンターに来る人たちのために十分な水を確保する新しい給水システムを設置する必要もあります。

これらのプロジェクトのためには、私たちを支援してくださる世界中の方々からの経済的支援を必要とします。ここナミビアのルンドゥで、特に若者や子どもたちが私たちの助けを必要としていることに心をとめ、ご支援いただきますようよろしくお願い致します。

東京 青少年の居場所 ハッピーハウス



子どもたちとボランティアと一緒に食事のひと時

サレジアン・シスターズ シスター宮澤直子

VIDES JAPAN(教育と開発を目指す女子国際ボランティア)では、2016年5月より「ハッピーハウス」という活動を開始しました。この活動は、もともと“Casa di Misericordia”(慈しみの家)と呼ばれるもので、通称「ハッピーハウス」と呼ばれ、子どもたちや若者たちが共に過ごす居場所づくりの活動となっています。

毎週火曜日と木曜日の17時から20時まで、JR赤羽駅(東京都北区)の近くで活動しています。ここに集まる子どもたちは、何らかの支援が必要な子どもたちが多く、現在は4人から5人の子どもとその保護者、VIDES JAPANの大学生ボランティアやシニアボランティア、そしてサレジアン・シスターズのシスターたちが共に過ごしています。毎回、子どもたちをはじめスタッフを含めると12～13人が集っています。

子どもたちは、やってくるとまず宿題に取り掛かり、主に大学生ボランティアが勉強を見てあげ、その後公園に行ってお遊んだり、部屋の中でお遊んだりします。同時進行で夕食作りも行われ、時々子どもたちも自ら料理作りを手伝います。皆でおしゃべりして楽しく過ごし、時には悩みを相談したり、夕食を一緒にいただいたりして、家族の団らんのようなひと時を過ごします。

このハッピーハウスへの参加と食事提供は、無料で行っています。参加している子どもたちは継続して来ており、この3年間で心身ともに成長が顕著に見られ、保護者の方や大学生スタッフ、どのメンバーにとってもまさしく居場所になっています。

東京 星美ホーム サローネ基金



集いの中心、現在のサローネのステージで

社会福祉法人扶助者聖母会 星美ホーム 副施設長 サレジアン・シスターズ シスター吉田百合子

児童養護施設 星美ホーム(東京都北区)は、建物の老朽化に伴い、より現代の児童のニーズに適った「家庭的」で「専門的機能」を備えた施設への全面建て替えを計画し進めております。

現在、子どもたちの入所理由の8割弱は虐待で、心身ともに「安らぎ」と「癒し」、そして「回復」が求められています。子どもたち一人ひとりが、大切にされると感じられる関わり、そして、そのような子どもたちのニーズに応えた「ホーム」作りを目指しておりますが、私たちの集いの中心となっている「サローネ(ホール)」の建築においては、資金調達の目途が立たず思案しておりました。

このような中、有志の方々が後援会 SEIBI Shining Kid's Family を立ち上げ、子どもたちの一致の中心、表現の場、精神的回復に有益な、このホールを建築する基金のプロジェクトを推し進めてくださることとなりました。支援して下さる方々への感謝と共に、このプロジェクトが成功し、子どもたちの得難い経験の場が新たな形で実現しますように心から願っております。

東京 多文化共生センター 東京



たぶんかフリースクールの授業風景



親子日本語クラス(小学生と保護者向け)の授業風景

認定NPO法人 多文化共生センター東京
代表理事 桧木典子

東京都内の国公立校(小・中・高)で学ぶ外国籍生徒は、2017年度には約14,000人に上り、2018年度には更に増加が見込まれています。増え続ける外国にルーツを持つ子どもたちの教育の改善は、喫緊の課題となっています。多文化共生センター東京(東京都荒川

区)による学齢超過の子どもたちのための「たぶんかフリースクール」(荒川本校・杉並校)、土曜日の小中学生のための学び場は、子どもたちの日本語学習や進学支援に必要不可欠な場として、重要な役割を担い続けています。

公的支援のほとんどない中、「たぶんかフリースクール」と土曜日教室の運営は、授業料と利用料、個人、企業の皆様からのご寄付で成り立っています。

今後とも子どもたちの大切な学び場を継続するために、皆様の温かいご支援をお願い申し上げます。

* * *

多文化共生センターでは、外国にルーツを持つ子どもやその保護者を対象に様々な活動プロジェクトを行っています。主なプロジェクトの利用状況は次のとおりです。

【たぶんかフリースクール】

56人の生徒(国籍:中国、フィリピン、ネパール、ベトナム、ミャンマー、日本)が高校進学に向けて、日本語、数学、英語を学んでいます。

【親子日本語クラス(小学生と保護者向け)】

44人の子どもと保護者(国籍:中国、ネパール、ベトナム、インド、タイ、シリア、アメリカ、ロシア、台湾、日本)が登録し、学びに来ています。

【子どもプロジェクト(中学生以上向け)】

36人の子ども(国籍:中国、フィリピン、ネパール、台湾、アメリカ、パキスタン、ミャンマー、日本)が登録し、学びに来ています。

ボリビア カーザ・マインと 小学校建設プロジェクト



カーザ・マインと建設中の小学校の様子

サレジャン・シスターズ ボリビア管区
管区共同体一同

日本の恩人の皆様へ、私たちの家“カーザ・マイン”の子どもたちと姉妹たちと共にご挨拶を申し上げます。私たちの使命のためにいつもご配慮くださり、ありがとうございます。

シスター竹山を通して私たちに送ってくださったご寄付は、ストリートチルドレンの幼児・児童100人が住む“カーザ・マイン”の子どもたちや、地域の子どものための人間形成およびキリスト教的教育のために計画されているサレジャン・シスターズの小学校建設のために使わせていただきます。

現在、幼稚園と未就園児のための2つの教室を運営していますが、多くの方がドン・ボスコの教育をしているサレジャンの学校に行きたいと望んでいます。今、小学生のために学校を建設中で、中断することなく建設を進めることができるのも、支援してくださる皆様のお陰と感謝いたします。

主の復活の喜びの時、また扶助者聖母の月(5月)にあたり、私たちの祈りを皆様方一人おひとりのためにおささげいたします。そして皆様の家族の上にも神様の祝福が豊かに注がれ、喜びで満たしてくださいませうように。心からの感謝をこめて。

報告 サレジオ会 ミッション・オフィス世界大会



ミッション・オフィス世界大会の様子



ミッション・オフィス世界大会のロゴマーク

DBK[ドン・ボスコ基金] 事務局長
サレジオ会 ブラザー須藤哲史

2019年1月17日から19日まで、イタリア・ローマにおいてサレジオ修道会のミッション・オフィスの世界大会が開催され、日本からもDBKを代表して出席しました。

ミッション・オフィスとは、サレジオ会の青少年活動を支えていくためにご賛同いただける方からご寄付をいただいたり、そのご寄付を必要に応じて送金したりする、サレジオ会の組織です。サレジオ会の総本部から各所で設置することが求められており、日本管区においては、DBK[ドン・ボスコ基金]がその役割を担っています。

今回の世界大会には、世界各地から総勢90人が出席し、サレジオ会員のみなならず、各国のミッション・オフィスで働くスタッフも参加していました。

1日目は、キリスト教的観点から人びととの連帯について、聖書を通して、またカトリック教会の教えを通して、私たちが奉仕するミッション・オフィスのアイデンティティについて学びました。

2日目は、具体的なミッション・オフィスの活動事例を聞きながら、分かち合いを行い、3日目は、ミッション・オフィスを運営する上で配慮すべきこと(ヨーロッパの事例をメインに)などを学びました。

今回の集まりを通して、ミッション・オフィスおよびDBKの役割と精神を改めて学ぶと共に、他の国々の状況を知りつつ、私たちができることは何かを考えるよい機会となりました。

DBK[ドン・ボスコ基金]に

ご支援くださった皆様

2018年9月1日～2019年3月31日の間に、DBK[ドン・ボスコ基金]に募金して下さった方々です。
匿名の方も含めまして、恩人の皆様からの寛大なご支援とお祈りに、心より感謝申し上げます。

【個人】〔敬称略〕

相見貴子、浅上玉枝、安達千恵子、安倍弘和、阿部正子、安部恭子、荒木由香里、有田美智子、飯島美智子、飯沼 武、井口端江、井口 巖、石井真紀子、石崎真理子、石突真理子、伊積佳江、伊積幸江、市川薫、猪俣武雄、入江千鶴子、岩田卓三、植木次郎、植田良子、内河純子、梅田正、遠藤昌子、大石雅子、大谷和功、大村睦、岡田尚彦・久美子、小川由子、越智史恵、小山田匡弘、笠岡一之、勝井豊、亀谷みき古、河郷由美子、河島保子、川本和子、木佐貴節子、岸井啓悟、黄瀬芙美子、久保田洋子、藏本麻里、栗木幸子、黒河内直子、毛塚隆之、郷古達也、後藤雅貴、小林徹也、権五鉢、坂口有久、坂本秀子、佐久間五十雄、佐藤香代子、佐藤雅代、佐藤洋子、佐野順次郎・みち子、澤美由紀、品川満紀、島本メリエ、下里合子、下里亘、正司尚子、杉山信彦、鈴木英子、鈴木祐子、妹尾ゆき、ソボンタデオ、高木信子、高島晶子、高瀬由紀子、高橋佐和子、竹村牧子、田代和生、田中真理、谷口広海、田村陽子、長坂香代子、中田文雄、西澤千代子、西出治彦、野口幸子、波田野洋子、浜崎廣光・祥恵、原之園容子、日向育子、平井隆史、平田久子、平松ケイ子、福井潔、福嶋慶子、福村真由美、藤村栄三郎、藤原伸子、藤原礼子、船坂滋子、古木裕行、増永絢斗、松井瞭博、松田律子、丸林眸、三上茂、水谷とし子、三田一博、宮崎智子、宮澤 正・香織、山合健三、山岡卓二、山家 艶、山本朋弥、横山多津枝、吉川敦、吉田邦利、吉武尚子、吉野篤、和田位、和田静、渡辺逸雄、渡辺新、LORO PIANA ACHILLE

【団体】〔敬称略〕

足立光生(あぐら会)、大分明星幼稚園、城星学園中・高、大森聖マリア幼稚園、小岩教会福祉部、小金井教会、カトリック津久見幼稚園、田園調布教会マーマレードの会、東仙台教会・海外協力会、三河島教会婦人会、由比ガ浜教会、三浦海岸教会、西新教会中村彰、目黒サレジオ幼稚園、株式会社 関西建物、カリタス学園同窓会、カリタス小学校、カルメル会修道会、光塩女子学院幼稚園、小倉カトリック教会有志一同、桜の聖母学院幼稚園、サレジオ・シスターズ 日本管区、大村修道院、目黒修道院、守護の天使修道院、別府修道院、世田谷修道院、玉造修道院、マンマ・マルゲリタ修道院、ボスコ・ワールド代表松田康子、日向学院中学校・高等学校、聖ベネディクト女子修道院、サレジオ学院幼稚園、城星学園小学校児童会、城星学園幼稚園ひまわりの会、星美学園幼稚園、星美学園小学校、社会福祉法人別府光の園施設長松永忠、星美学園短期大学同窓会、聖血礼拝修道会、那須修道院、調布星美幼稚園、ドン・ボスコ社(店頭募金)、コンブレガシオン・ド・ノートルダム修道会、目黒星美学園小学校、目黒星美学園中・高

【匿名の方】 72件

DBK[ドン・ボスコ基金]へのご支援とお祈りを、
今後ともよろしくお願いいたします。

DBKだより

第22号

2019年6月1日

発行人 濱口 秀昭

発行所 ドン・ボスコ基金

〒160-0011 東京都新宿区若葉1-22-12
サレジオ会日本管区本部内
Tel:03-3353-8355 Fax:03-3353-7190
Email: dbkinfo@salesians.jp
https://salesio.jp/about/dbk



DBK[ドン・ボスコ基金]は、特に助けが必要な青少年の保護育成を支援する、サレジオの基金です。

サレジオ会の創立者ドン・ボスコの精神を受け継ぎ、貧困・家庭問題・災害等により、特に助けを必要とする青少年を保護育成する国内外のプロジェクトを支援しています。



DBKウェブサイト
「DBKだより」
バックナンバーも
ご覧いただけます

ご寄付くださる方は以下にお振り込みください。

郵便振替 口座番号 00190-5-292253

加入者名 ドン・ボスコ基金

寄付者氏名の非公表をご希望の方は、
払込用紙に「匿名希望」(☑チェックマーク)をご記入ください。



サレジオ家族の集いでDBKを紹介するスタッフ